St Luke's International University

聖路加国際大学
海外研修・留学プログラム
GUIDE BOOK 2023

大学主催海外留学プログラムについて

なぜ留学するの？

グローバル化が進んだ現在では、看護やヘルスケアの分野においても国際教育の充実がとても重要な課題になっています。それは、多様化する社会の中で、人と健康について考え、理解を深めていくことが不可欠であるためです。

日本においても、今後ますますグローバル化が進み、一人の人間として、また看護の専門職として、様々な背景を持つ人々と関わることになります。その際に身に着けておきたいのは「語学力」や「異文化の知識や異文化を理解し受け入れようとする力」、「異なる国の人々の生活や保健医療・看護制度の現状を知ること」などです。

聖路加国際大学では、海外留学がこれらの学びと成長の機会であると捉え、全学生に対し、在学中に少なくとも１度は海外研修に参加することを勧めています。幅広く多様な海外留学プログラムを提供するとともに、海外渡航に係る経済的負担を軽減する目的で、寄付金を財源とする奨学金制度を設置し参加を支援しています。

大学主催海外留学プログラムのメリット

1. **現地**の協定校の教員・スタッフ・学生や、見学機関の医療者など、留学プログラムでしか関わることのできない人々との交流を育むことができます。途上国など単独行動が難しい地域においても、現地の方と一緒に行動することによって行動範囲を広げることができます。

2. **同年代の看護学生**との交流機会があります。看護師として同じ目的を持つ異国の友人を得られるチャンスであり、将来に繋がるネットワークを作ることができる機会です。

3. **奨学金制度**による支援は、貸与でなく給付制であり、返済不要です。

4. **看護学**ならではの研修プログラムが多く用意されています。医療・看護に重点を置いた研修内容で、主に２年生以上を対象としています。

留学したくなったら．．．

＊英語力を高めておきましょう

大学主催プログラムの使用言語は英語です。このため、学内応募にあたり外部英語試験結果の提出が必要となります。応募にあたっては、早めに語学試験を受験し準備をしましょう。

実際に研修プログラムの参加者から「現地での英語コミュニケーションの準備が足りなかった、もっと勉強しておけば思いを伝えられた」との感想が寄せられています。研修で充実した経験を得るためにも、自己研鑽をお勧めします。

＊情報を集めましょう

大学主催のプログラムに加えて、外部団体主催のプログラムについても情報を探してみましょう。参加を希望する内容のものが見つかれば、外部団体主催のプログラムに対する奨学金（上限 10 万円）を利用することができます。主に春と秋に大学内で開催される海外留学プログラム説明会では、過去の参加者の方のお話を聞くことができます。

なお、海外留学プログラム参加に限らず、海外渡航の際には、危機管理が重要となります。自分の身は自分で守るための準備（海外旅行保険の加入、現地治安、現地で利用できるクレジットカードの準備など）についても積極的に情報を確認しましょう。

国際連携推進委員会分科会

【留学に関する窓口】
国際・地域連携部 国際連携室（大学本館１階事務室内）international@slcn.ac.jp

大学主催海外留学プログラムについて

大学主催プログラム一覧

① Step 1: 異なる文化・言語に触れる

頁	プログラム名	国	内容	実施時期	単位認定	費用概算(奨学金予定額)	募集時期
7	マギル大学夏期語学研修	ｶﾅﾀﾞ	モントリオールでの一般的な英語研修（3 週間）/現地文化学習	8 月	海外語学演習 2 単位	89 万円(10 万円)	4-5 月
8	聖公会＆アジア･トリニティ大学主催 サービスラーニング研修	ﾌｨﾘﾋﾟﾝ	マニラでの地域コミュニティ活動（2 週間）/サービスラーニング（社会への貢献と市民の一員としての責任を学ぶ）、現地文化学習	2 月	専門科目「ｻｰﾋﾞｽﾗｰﾆﾝｸﾞ」（2 単位）の一部として認定	28 万円(19 万円)	10-11 月
20	海外留学助成	本学主催プログラム以外の海外研修・ボランティア活動に対する奨学金（行先、費用、単位認定はプログラムによって異なる）		春夏休暇	一部あり	(10 万円)	5-6 月 11-12 月

② Step 2: 海外の医療・看護を学ぶ

頁	プログラム名	国	内容	実施時期	単位認定	費用概算(奨学金予定額)	募集時期
10	Study India Program（シンバイオシス国際大学）	ｲﾝﾄﾞ	インドの教育・研究の中心地プネにある大学での看護・異文化研修（2 週間）/保健医療制度・看護制度等の講義、保健医療施設訪問、学生交流	2 月、8 月	国際交流演習 1 単位	57 万円(40 万円)	5-6 月 10-11 月
11	高雄医学大学交換研修	台湾	台湾南部の高雄にある医学大学での看護・異文化研修（2 週間）/保健医療制度等についての講義、保健医療施設訪問、学生交流	3 月	国際交流演習 1 単位	12 万円(9 万円)	10-11 月
12	マヒドン大学交換研修	タイ	バンコクにある国立大学での看護・異文化研修（2 週間）/保健医療制度等についての講義、保健医療施設訪問、学生交流	8 月	国際交流演習 1 単位	19 万円(14 万円)	4-5 月
13	ヨンセイ大学交換研修	韓国	ソウルの名門校での看護・異文化研修（2 週間）/保健医療制度等についての講義、保健医療施設訪問、学生交流	9 月	国際交流演習 1 単位	9 万円(7 万円)	5-6 月
14	ノースカロライナ大学チャペルヒル校交換研修	ｱﾒﾘｶ	ノースカロライナ州立大学での看護・異文化研修（2 週間）/保健医療制度等についての講義、保健医療施設訪問、学生交流	学士編入生対象 2 月	国際交流演習 1 単位	52 万円(36 万円)	10-11 月
15	マギル大学　短期集中医療英語研修	ｶﾅﾀﾞ	看護・医療分野に特化したオーダーメイドの英語研修（17 日間）/医療英語、看護関連セミナー、地域の病院・健康医療施設での見学実習、ホームステイ	3 月	海外語学演習 2 単位	50 万円(37 万円)	11-12 月

③ Step 3: 国際看護を実践する（4 年生限定）

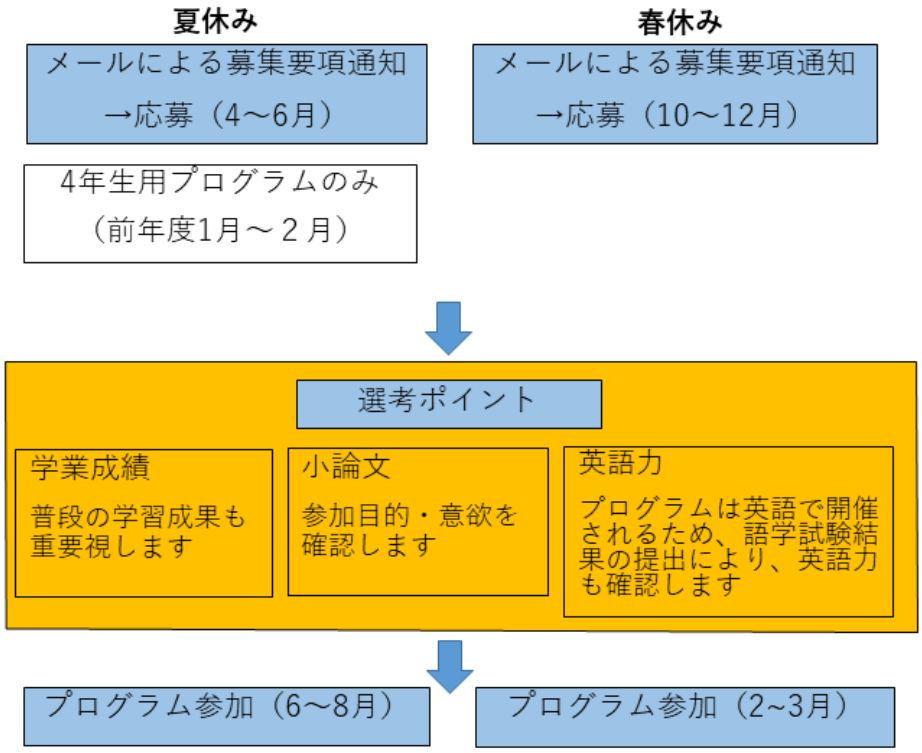
頁	プログラム名	国	内容	実施時期	単位認定	費用概算(奨学金予定額)	募集時期
17	総合実習（国際看護学）	ﾌｨﾘﾋﾟﾝ	マニラでの国際看護実習（10 日間）/一般外来・DOTS クリニックでの実習、地域の巡回、家庭訪問ほか	7-9 月	総合実習 3 単位	28 万円 (13 万円)	1-2 月
18	総合実習（イリノイ大学シカゴ校看護学部派遣研修）	米国	シカゴにあるイリノイ大学での看護研修（3 週間）/グローバルヘルス講義、大学病院での病棟実習ほか	6-7 月	総合実習 3 単位他	102 万円 (65 万円)	1-2 月
19	デューク大学看護学部グローバル＆コミュニティヘルス特別プログラム	米国	ノースカロライナ州の名門私立大学での看護・公衆衛生研修（3 週間）/米国の看護・公衆衛生に関するセミナー、医療関連施設訪問、グループワーク	8 月	国際交流演習 1 単位	93 万円 (55 万円)	11-12 月

※上記スケジュールは受入側等の都合により変更になる場合があります。また学事暦によりその年のみ参加できない学年が出る場合もあります。

※費用概算と奨学金予定額は為替レートなどによって変動することがあります。最新情報は募集時に配信する募集要項をご確認下さい。

大学主催プログラムに参加するには？ ～募集から参加決定まで～

大学主催プログラムは、夏休み中と春休み中の年二回の開催となります。それぞれの募集時期、実施時期、選考の基準となるポイントは以下の通りです。

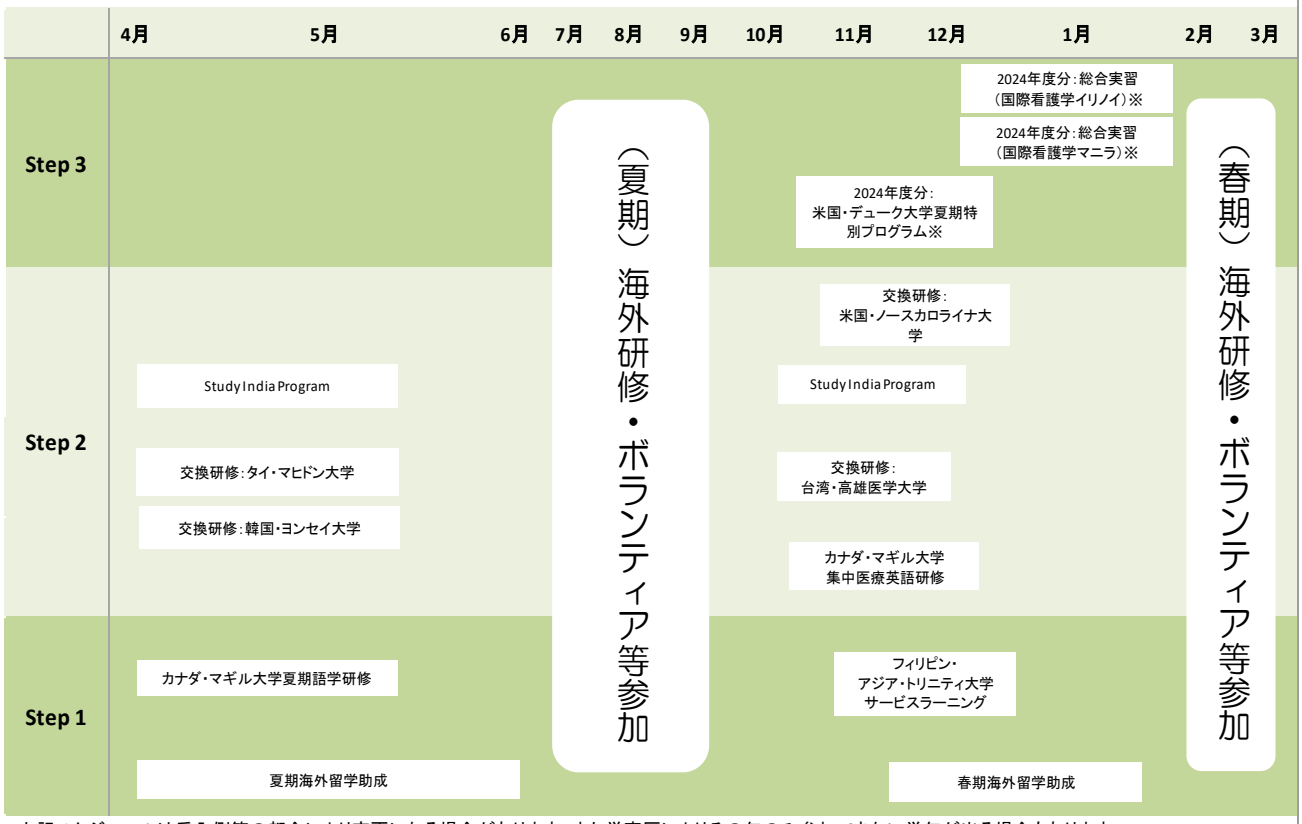


大学主催プログラムに参加するには？ ～募集から参加決定まで～

大学主催プログラムの募集時期は年度初めに便覧に掲載されると共に、プログラムごとに随時メールで募集要項が配信されます。それらを確認しながらご自身がいつ・どこに留学をしたいかスケジュールを立てていただきます。プログラムにより選考方法は異なりますが、基本的には「学業成績」「参加目的・意欲（小論文を提出）」「英語力」を総合的に判断します。

＜英語力について＞
全てのプログラムは英語で行われます。派遣先の大学での授業や交流にて有意義な時間を過ごして頂けるよう、多くのプログラムは学内応募にあたり語学試験結果の提出が必要となりますので、積極的に語学試験を受験するなど早めに語学の勉強を進めておくことをお勧めします。

2023年度 聖路加国際大学学生国際奨学金／募集スケジュール詳細



・上記スケジュールは受入側等の都合により変更になる場合があります。また学事暦によりその年のみ参加できない学年が出る場合もあります。
・学士編入学生については、学事日程の都合上、一部の留学プログラムのみ応募可能です。詳細は国際連携室へお問い合わせください。
・学生国際奨学金受給条件：1学生につき単年度1回のみ受給可
※ 総合実習（国際看護学イリノイ・マニラ）およびデューク大学夏期特別プログラムは2024年度派遣プログラムのため、2023年度奨学金受給者も応募可能

Study Abroad Opportunities
at St. Luke's International University, College of Nursing

聖路加国際大学　国際・地域連携部/国際連携推進委員会分科会
2023.4.1

【カナダ】
マギル大学
①夏期語学研修
②集中医療英語研修

②
【韓国】
ヨンセイ大学
交換研修

③
【アメリカ合衆国】
イリノイ大学シカゴ校
国際看護総合実習
（4年生限定）

③
【アメリカ合衆国】
デューク大学
看護・公衆衛生
研修
（4年生限定）

②
【アメリカ合衆国】
ノースカロライナ大学
チャペルヒル校
交換研修
（学士編入限定）

②
【インド】
Study India Program
シンバイオシス国際大学

②
【タイ】
マヒドン大学
交換研修

②
【台湾】
高雄医学大学
交換研修

①
【フィリピン】
アジア・トリニティ
大学サービスラー
ニング研修

③
【フィリピン】
総合実習
国際看護
（4年生限定）

Key

① Step 1: 異なる文化・言語に触れる

② Step 2: 海外の医療・看護を学ぶ

③ Step 3: 国際看護を実践する

1 年生から参加できるプログラムの紹介です。

1. カナダ・マギル大学語学研修
2. フィリピン・聖公会＆アジア・トリニティ大学主催
   サービスラーニング研修
3. 海外留学助成（20 ページをご参照ください）

おすすめポイント

マギル大学があるカナダ・**モントリオール**は、**フランス語**が第一言語の住民が 7 割！もちろん公用語は英語なので英語を学びつつ、北米のパリと呼ばれる美しい都市でその**文化**にふれることができます。
普段からモニターと呼ばれる現地学生さんが付き添ってくれて、初めての海外でも安心！日本の他の大学からも学生が参加するので交流もできますよ。

フィリピンのマニラって自分で行くには治安が不安だけど、**現地の大学**が主催しているプログラムだし、いつも現地学生とグループで行動するので安心！地域コミュニティでの**ボランティア活動**を通して学ぶものは大きいはず！自分の目で現状を見て体感しましょう。アジア各国からの留学生も集まるので、活動を通していろんな国の友達もできます。もちろん 1 年生だけでなく、上級生にもおすすめのプログラムです。

1 年生も上級生も、もっと**私の関心**に合った他のプログラムはないかな？という方は、**外部の研修プログラム**に参加していただき、助成を受けることもできます。様々な国・目的・日程から選ぶことができます。せっかくの長期休み、どこかに行かなきゃもったいない！一歩踏み出してみましょう。

マギル大学語学研修

マギル大学について

カナダのケベック州モントリオールにある公立大学。1821 年に設立され、北米で最も古い伝統と教育レベルを誇る総合大学です。学生数は 4 万人を超え、また、世界各国からの留学生が在籍し、全体の 31%となっています。

プログラムについて

募集人数	上限なし（何名でも参加できます）
実施時期	8 月初旬の 3 週間、気温は約 25 度で過ごしやすい
費用	約 89 万円（以下内訳） 研修プログラム費用、大学近くの寮での宿泊費・食費（2 食付き）、海外渡航費（航空券、ビザ取得費用、海外渡航保険料）、現地交通費、週末オプショナルツアー（ツアーによって料金は異なります）
単位認定	海外語学演習 2 単位（帰国後の成果報告書等により学習目標を達成したと評価された場合）

プログラムの特徴

英語学習授業　単位認定　文化交流アクティビティ

英語クラス	経験豊富な講師による英語講義と、発音矯正クリニックで構成されています。参加者の語学スキル別に初級～上級のクラスに分けて行います。
モニター制度	マギル大学学生が、モニターとして 24 時間付き添います。モニターは全ての課外活動に同行し、生徒に英語を話す機会を豊富に提供します。緊急時にも、24 時間体制で応じます。
課外活動	授業後、週末には、学生モニターによる市内観光案内や留学生の交流アクティビティが行われます。カナダの文化をモニターや留学生との交流を通じて学習することができます。

参加者の声

私は初めのうちは、ほかの生徒の前で英語を話すことに恥ずかしさを感じ、抵抗がありました。しかし講師がいつも「Don't be shy」「You can make a mistake!」と言ってくださったので、徐々に抵抗はなくなり、自分から発言することができるようになりました。わからない単語があると先生がわかりやすく丁寧に教えてくれたので、すぐに理解することができました。また、私が話そうとしていることに対ししっかりと耳を傾け、理解しようとしてくれました。（2019 年度学部 1 年）

この研修で一番印象に残っているのは、現地の人との関わりである。この語学研修では、身の回りのことや、様々なアクティビティを共に行う、レジデンスモニターと、クラスモニターという学生さんたちと 3 週間過ごした。普通の旅行ではそれほど現地の方と話したり、共に過ごすことは出来ないと思うが、このプログラムのおかげで語学研修として共に過ごすことで、彼らが考え感じていることや、カナダについてより詳しく知ることができた。モニターさんはいつもどうやったら私たちが楽しめるか、喜ぶかを考えてくださり、思いやりをもって接してくださり、助け合って過ごすことの大切さも学ぶことができた。毎日、授業後と夕食後にはフリータイムがあったので、寮の近くのオールドポートを観光したり、マギル大学の近くのショッピングセンターへ行くことができた。（2019 年度学部 1 年）

カナダは多国籍の国であることもわかりました。それは、身近にポルトガル人やロシア人、イタリア人、中国人などさまざまな国籍のモニターがいたからです。（中略）モニターの中には、ベジタリアンやヴィーガンの人が多くいました。（中略）日本よりも、そのような人は多くいることと、彼らに対する理解が進んでいることに気がつきました。（2019 年度学部 1 年）

聖公会＆アジア･トリニティ大学主催 サービスラーニング研修

アジア･トリニティ大学について

フィリピンのマニラにある、本学と同じキリスト教聖公会の私立大学。1963 年の設立以来、学問と社会貢献活動の連携に取り組んできました。1996 年からは、世界聖公会大学連盟(CUAC)と協同し、このサービスラーニングプログラムを実施しています。

プログラムについて

募集人数	約 10 名
実施時期	2 月の約 2 週間、気温は約 30 度ですが乾季でマニラにしては過ごしやすい
費用	約 28 万円（以下内訳） 研修プログラム費用、大学寮での宿泊費・食費、海外渡航費（航空券、海外渡航保険料）、予防接種料
単位認定	次年度に科目履修を行い、講義受講と追加のボランティア活動により専門科目「サービスラーニング」（2 単位）として認定

プログラムの特徴

文化交流アクティビティ　病院見学　単位認定

サービスラーニングとは	サービス（奉仕）ラーニング（学習）プログラムとは、その名の通り奉仕活動の中に学習活動を組み込んだ活動です。大学にボランティア活動の拠点があり、マニラの地域社会でボランティア活動を行うのと同時に、毎日振り返り・話し合いをしてプログラム運営に関わり、学習を進めます。また看護学部の学生が行う健康教育活動へ参加する機会もあります。
各国からの参加者	日本、韓国、インド、フィリピンなどの学生が参加し、グループに分かれて毎日活動します。滞在中は大学内の寮で共同生活を送ります。研修のオープニング・クロージング各セレモニーでは、アジア各国の学生がそれぞれの民族衣装を身に着け、伝統的な歌、踊り、楽器の演奏などを披露して楽しみます。

参加者の声

CUAC 研修では、今まで教科書やドキュメンタリー番組でしか見たことがなかったフィリピンの街中やスラム街を実際に 自分の目で見て体験し、貴重な経験をすることができた2週間となった。スラム街の人々は閉鎖的で、物乞いの子供たちが多く、外国人を受け入れてくれる雰囲気は一切ないと思っていた。しかし、バランガイの人々のほとんどは英語を話すことはできなかったが、皆笑顔で外国人の私たちを受け入れてくれ、現地の学生を介してコミュニケーションを取ることもでき、子供たちも人懐っこく、安心できた。今回の研修では、フィリピンの環境や文化を学べることを期待していたが、それだけではなく、1週目は現地の看護学生と共にコミュニティのヘルスケアセンターを訪れ、看護技術を実践し、フィリピンの医療制度を学んで日本との相違点を知ることができた。フィリピンでは、看護学生のうちから実際に患者に注射を打ったり、手術で簡単なアシストをする機会があるとのことだった。また、フィリピンには、郊外の大きな病院がない地域に誰にでも無料で医療を提供しているクリニックがあり、看護学生は近くの大きな病院だけでなく、そのようなクリニックにも実習に行くとのことだった。そして、都内にあり、地方の医療機関を実際に訪れて実習をする機会がない聖路加の学生と比べ、フィリピンの学生は、より実践の場が多く、臨床で即戦力になることができると感じた。（2022 年度　学部 2 年生）

2～4 年生向きプログラムの紹介です

派遣研修

1. Study India Program（シンバイオシス大学）
2. マギル大学短期集中医療英語研修

2～4 年生向きの派遣研修は、様々な国の大学や保健医療施設の訪問等を通し、語学や現地の文化だけでなく、他国の医療・看護に関する知識も深める研修です。こちらのマギル大学研修は上級生向けで、応募には TOEIC 550 点相当の英語力が求められる。現地では大学院生や看護師と同じプログラムに参加することになります。

交換研修

1. マヒドン大学
2. ヨンセイ大学
3. 高雄医学大学
4. ノースカロライナ大学

交換研修は、聖路加国際大学と世界各地にある協定校とが、お互いに学生を受入・派遣し合うプログラムです。プログラム内容は協定校により決定されますので、毎年内容は変わる可能性がありますが、どのプログラムに参加しても大学での講義や病院見学など同様の内容を体験することができます。プログラム費用もかかりません。
事前に本学に来日した学生が現地大学でお世話をしてくださったり、本学の学生もホームステイや交流会を通じて受け入れ側としてお世話をしたりします。行ってお世話になりっぱなし、ではなく、積極的に相互交流に参加してくださる学生を募集しています。

共通事項：

渡航前の準備が重要になります。オリエンテーションや事前学習で相手国について学び、さらに英語でのプレゼンテーションを現地で行うためにその準備もしていきます。また帰国後は文化祭での報告会でも成果を発表していただきます。（発表担当プログラムはその年によって変わります）

留学前の準備

オリエンテーション	事前学習	プレゼンテーション準備
海外渡航時のリスク対応とマナー・異文化看護について学習します。	日本の医療保健制度、看護の現状、教育制度、 文化等について調べ、理解を深めます。	日本の医療保健制度、看護の現状、文化等について、英語で発表資料を作成します。現地研修中に英語で発表を行います。

Study India Program

シンバイオシス国際大学について

インドのプネにある国際大学で、設立から 50 年ほどの比較的新しい大学ですが、多くの国からの留学生を受け入れ、多文化の共生を重視しています。看護学部も様々な国からの長期・短期留学生の受入・交流実績があり世界で活躍する看護師を目指した教育を行っています。

プログラムについて

募集人数	夏期休暇中・春期休暇中　各約 10 名
実施時期	7-8 月・2-3 月の約 2 週間
費用	約 57 万円（以下内訳） 研修プログラム費用、大学寮での宿泊費・食費、海外渡航費（航空券、海外渡航保険料、インドビザ取得費用）、現地交通費、予防接種料
単位認定	国際交流演習 1 単位（帰国後の成果報告書等により学習目標を達成したと評価された場合）

プログラムの特徴

文化交流アクティビティ　病院見学　単位認定

なぜインドなのか（プネについて）	世界第 2 位の人口を持ち、経済・文化において世界から注目を集めているインドに行ってみませんか？　大学が位置するプネは、インドで 8 番目に大きく緑の多い高原都市で、東のオックスフォードとも呼ばれ、ハイレベルな大学・研究機関・企業が集まるインドの教育・研究の中心地です。いわゆるインドのイメージとは一味違います。
プログラムについて	大学のゲストハウスに宿泊し、食事は現地学生と同じく大学のカフェテリアでとります。研修を通じて、インドの看護・保健システムを学びつつ、週末はインドの学生宅を訪問したり、課外時間には Bollywood Dance のレッスンやヨガを行ったり現地の生活・文化もしっかり楽しめるプログラムです。2022 年度より開催されることになりました。

参加者の声

インドの医療について学ぶ中でとても重要になってきたのが、乳児死亡率、妊産婦死亡率でした。インドにおいて女性の健康はその家族の健康につながり、家族の健康はその家族が属するコミュニティの健康につながり、コミュニティの健康はインドという国全体の健康につながるという先生の言葉が今でもとても印象に残っています。女性の健康、特に妊娠期の女性の健康を増進するためにも、その地域における看護師や助産師は、医療の専門家として、また女性の強い味方として支援していくことが必要なのだと感じました。（2019 年度学部 3 年）

インドの文化にも触れる機会が多くあり、伝統舞踊やサリーなどの伝統の衣類を見たり実際に着たり踊ったりすることができた。インドの文化は食事も服も音楽も日本にないものばかりでとても魅力的だった。また、宗教も日本との違いをかなり感じたものの一つだ。施設に入る際の身体チェックが男女でわかれていることや、ベジタリアンの人が多いことに驚いた。また、インドの学生との交流を通して、自分の英語力の未熟さを実感した。インドの人々は、地域によって違う言語を話すため、ほかの地域の人と話すときはみんな英語で話していた。（2019 年度学部 3 年）

高雄医学大学護理学院交換研修

高雄医学大学大学について

1954 年に台湾初の私立医科大学として設立されました。優れた教育・研究を提供し、台湾の保健医療分野に貢献しています。医・歯・薬・看護・健康科学・生命科学の 6 学部を擁し、学際的な視野から教育研究の発展を進めています。

プログラムについて

募集人数	6 名
実施時期	3 月の約 2 週間、20 度くらいで過ごしやすい
費用	約 12 万円（以下内訳） 研修プログラム費用（免除）、大学寮での宿泊費（免除）、海外渡航費（航空券、海外渡航保険料）、現地交通費 現地での自己負担：食費（3 食） 約 3 万円
単位認定	国際交流演習 1 単位（帰国後の成果報告書等により学習目標を達成したと評価された場合）

プログラムの特徴

文化交流アクティビティ　病院見学　単位認定

スケジュール（例）	講義、病院ツアー（産後ケア、緩和ケア）、市内ツアー、大学内シミュレーションセンター等
特徴	産後ケア・緩和ケアなど患者に寄り添った医療の見学、ホスピタリティ溢れる学生・教員

参加者の声

台湾では、東洋医学の利用が広がっており、科の一つとして病院に置かれている。東洋医学では、鍼や鍼灸による治療、漢方を用いたマッサージ、昔ながらの漢方の食材による薬膳スープなどが行われていた。東洋医学は薬に頼ることなく、昔ながらの自然な方法で治療を行う。だから副作用も少なく、市民にとって利用しやすい医療であると感じた。また、台湾にも日本の健康保険制度と類似した制度があることがわかった。国民皆保険制度であり、様々な医療が無料で受けられる制度が整えられていた。台湾の医療について知ることは、同時に日本の医療について見つめ直す良い機会となった。これまで日本の医療を客観的にみつめることは無かったが、これからは今の現状を当たり前と思わず、海外の国々と日本は比べてどうなのだろうか、という視点を大切にして考えていきたいと思った。（2018 年度学部 2 年）

医療現場の見学や授業以外では、高雄医学大学の生徒が私たちを色んな所に連れて行ってくれたり、サポートしてくれた。寮での生活に不自由がないかなど、常に私たちが台湾での生活に困ることのないように配慮してくれたため、2 週間とても楽しく過ごすことができた。みんなで餃子作りもしたが、作り方が日本とは少し違い、戸惑ってしまったが現地の学生と助け合い美味しい餃子を食べることが出来た。私たち日本人も、現地の台湾人も母国語はお互いに違うが、第二言語である英語を通して、自分たちの趣味や学校生活のことを話すことができた。そのため、英語を勉強して他の国の人と会話をすることができて良かったと思った。（2018 年度学部 1 年）

マヒドン大学看護学部交換研修

マヒドン大学について

タイのバンコクで学生数 2 万人以上を擁する総合大学です。1890 年にタイ王族によって設立されたタイ王国初めての現代医学校「シリラート医学校」が前身となっています。国内最大のシリラート病院を擁する医学部シリラート校と、研究拠点となっている医学部ラマティボディ校が隔年でホストをしますが、どちらも見学できます。

プログラムについて

募集人数	4 名
実施時期	8 月初旬の 2 週間、雨季ですが昼間は 30 度越え暑いです
費用	約 19 万円（以下内訳） 研修プログラム費用（免除）、大学寮での宿泊費（免除）、海外渡航費（航空券、海外渡航保険料）現地交通費 現地での自己負担：食費（3 食） 約 3 万円
単位認定	国際交流演習 1 単位（帰国後の成果報告書等により学習目標を達成したと評価された場合）

プログラムの特徴

文化交流アクティビティ　病院見学　単位認定

スケジュール（例）	講義、国内最大のシリラート病院ツアー、プライマリケアユニット見学（伝統医療）、大学での実技練習、看護協会見学、老人クラブでの交流、市内ツアー等
特徴	国内随一の大病院の見学、伝統医療（マッサージ・ハーブなど）、老人クラブでの出し物等によるお年寄りと交流、他国からの参加者との交流

参加者の声

大学病院では数グループに分かれ、医師の付き添いのもと、整形外科、内科の病棟を見学しました。患者さんの症状や使用している医療器具、ナースの役割、記録や薬品の保存、在庫管理の仕方について説明を受け、度々、自分たちの国と同じか、違うかについて問われました。インドネシア、台湾の学生は、自分たちの国と同じと言っている項目が多い印象でしたが、日本とは異なる部分が大半でした。（2019 年度学部 2 年）

Ban Salawan Health Promoting Hospital では、病院ではあるものの中心となって運営しているのは看護師であり、ドクターは週に 2 回しかその病院を訪れないということにも衝撃を受けた。一見医療技術も進み、駅周辺には大きなショッピングセンターが並んでいるタイは、非常に発展した国であるように見える。しかし、タイは貧富の差が非常に大きい途上国であり、日本と同じように生活習慣病が増えつつあるが、いまだに感染症の問題が多く残っている。それは特に村などに住む貧困層を中心にあり、そんな医療を受けづらい貧困層のためにこの Health Promoting Hospital がある。小学校に対して健康教育を行ったり、高校生に対して性教育、また、全体に蚊により媒介されるデング熱やシラミなどの衛生的な問題についてや、食品衛生についての教育などもしている。その人数は多く、医師が全ての人を見ることができないため看護師が非常に大きな役割をもって働く必要があるのだ。（2019 年度学部 2 年）

ハーブやマッサージを中心とした伝統医療の施設では、サウナやタイマッサージ、針、漢方などを見学しましたが、死を迎える人のためのメンタルケアが特に印象に残りました。メンタルケアの部屋には仏教の装飾や置物があり、ケアを受ける人はそこで絵を描くなどの活動を通して心を落ち着けます。メンタルケアに宗教の働きが関与している点は、聖路加と共通しているように感じました。（2019 年度学部 2 年）

ヨンセイ大学看護学部交換研修

ヨンセイ大学について

韓国のソウルにある市立総合大学で、国内では 3 本の指に入る名門大学です。1885 年に長老派協会の宣教師によって設立された韓国で最も古い伝統を誇る病院が大学の基礎となっています。看護学部が設立されたのも韓国ではヨンセイ大学が初めてです。

プログラムについて

募集人数	6 名
実施時期	9 月の約 2 週間、昼間は 30 度を越える真夏です
費用	約 9 万円（以下内訳） 研修プログラム費用（免除）、大学寮での宿泊費（免除）、海外渡航費（航空券、海外渡航保険料）、現地交通費 現地での自己負担：食費（3 食） 約 3 万円
単位認定	国際交流演習 1 単位（帰国後の成果報告書等により学習目標を達成したと評価された場合）

プログラムの特徴

文化交流アクティビティ　病院見学　単位認定

スケジュール（例）	講義、附属セブランス病院実習（シャドウイング）、ラボ見学、代替医療センター見学、市内ツアー等
特徴	国際的評価を受けている（JCI 認定）セブランス病院等における実習の充実、ラボ見学、他国からの参加者との交流

参加者の声

韓国に着いてからは、様々なプログラムを準備してくださっており、老年・精神、小児、医療安全、ウィメンズヘルス、公衆衛生、成人看護など様々な領域に関する講義を設けてくださり、韓国での現状を知り、日本の現状を伝えたり、同時期に短期交換留学に来ていたスイスの学生とも一緒に授業を受ける中でスイスやヨーロッパ諸国の現状、国の間での比較やアジアとヨーロッパでの現状の比較などを行ない、日本だけでなく世界の医療や看護に関する現状について知見を深めることができた。韓国と日本では、同じアジアと言うこともあり、受験や就職などのプレッシャーがとても大きいという側面から自殺が多いなど類似点も多いと言うことがわかった。病棟実習の見学では、日本とは異なり、韓国の学生は患者さんに直接ケアを行なうことができず、患者さんへのインタビューやコミュニケーションに重きを置き、患者さんや電子カルテから情報を得て、そこから看護診断を行なうなどを行なっており、病棟内で看護学生が使用できる部屋で検討会を行なっていることが多かった。韓国では、入院すると家族がその患者の世話をすることが多く、家族の結びつきがとても強い文化であり、学生がケアを行うことをあまりよく思わない人が多いと言うことであった。（2019 年度学部 4 年）

自分は英語で日常会話はすることができるが、日本の医療体制など、学問的な内容になるとうまく伝えたいことが伝えられないということを知ることができた。また、日本について聞かれた時に、すぐに答えられないことが多々あり、自分は自分の国を他者に紹介する能力が足りないことから、私は日本を代表して来たという、日本人としてのアイデンティティに低さに気付かされた。もっと自国についての知識を身につけ、言いたいことを伝えられるようになりたいと感じ、学習への良いモチベーションとなった。（2019 年度学部 2 年）

今回のプログラムでは授業だけでなく臨地実習もさせていただく機会があり、現地の現状を肌で感じることができました。3 年次に行った実習を思い出し比較しながら学ぶことが出来、同時期に来ていたスイス人学生とも意見交換をしたりと幅広い経験をしました。韓国は地理的に近いこともあり医療制度や人々の健康に対する価値観は日本人と近いように感じました。実際平均寿命や社会問題等数値としても類似しており理解を深めやすかったです。（2019 年度学部 4 年）

ノースカロライナ大学チャペルヒル校 看護学部交換研修

ノースカロライナ大学について

ノースカロライナ大学チャペルヒル校は、アメリカ合衆国最古の州立大学で、設立以来極めて優れた教育と研究を続けている総合研究大学として名を馳せています。看護学部は、U.S. News ランキング 2023 で 5 位（看護学修士）に入る名門校です。

プログラムについて

募集人数	2～4 名、学士編入生向けのプログラムです
実施時期	2 月の約 2 週間、気温は-0 度から 10 度ほどです
費用	約 52 万円（以下内訳） 研修プログラム費用（免除）、ホテル宿泊費、海外渡航費（航空券、海外渡航保険料、ビザ取得費用（2 千円程度、各自手配））、現地交通費、予防接種料 現地での自己負担：食費（3 食） 約 4 万円
単位認定	国際交流演習 1 単位（帰国後の成果報告書等により学習目標を達成したと評価された場合）

プログラムの特徴

文化交流アクティビティ　病院見学　単位認定

スケジュール（例）	講義、大学・病院ツアー、老人ホーム見学、市内ツアー等
特徴	小人数参加者の希望に合わせた講義、見学ツアー

参加者の声

私は、外国人患者に看護を提供できる能力を高めること、生活困窮者への看護師としての支援を学びたいと考えノースカロライナ大学交換研修に参加した。学びの1つとして、外国人患者が医療現場で感じる困難を理解したことがある。今回の研修が、私にとって初めての海外で学ぶ機会であった。英語で十分にコミュニケーションをとれないことの大変さを実感した。この経験を通して、外国で医療機関を受診するということは、外国人患者が「医療用語が理解できないかもしれない。」という不安を抱くことが理解できた。加えて、「自分の訴えを詳細に伝えることができない、複雑な話が理解できない。」と感じるであろうと考えた。また、言語だけでなく医療制度や保険料の負担額も国によって違うことが、より外国人患者が受診する際に不安にさせる。今回の研修で外国人として過ごした経験をもとに、外国人患者が医療を受診する際、どのようなことに不安を抱くのかを理解し、外国人患者に対応ができる看護師になりたいと考えた。また、アメリカの医療・看護について学ぶことを通して日本の医療の特徴を理解したことである。大学の講義や施設の見学では、日本と比較して、アメリカの先進的な設備や規模の大きさ、多様性に富んだ環境であることをいたるところで実感した。

今後は英語力を向上させることと、国際的な視点をもって看護実践することが課題である。今回の研修の学びを通して、世界における日本の看護の特徴をこれまで以上に理解することができた。そのため、今後は、医療・看護について、英語でも情報を得ることができ、コミュニケーションがとれるように、英語の学習に努めたいと考える。また、本研修で得た学びを臨床での看護実践や自身のｷｬﾘｱに活かすことで、今回の経験をより多くの人々に還元し、医療・看護分野に貢献できる看護師になりたい。（2022 年度学部（学士編入）3 年）

マギル大学短期集中医療英語研修

マギル大学について

カナダのケベック州モントリオールにある公立大学。1821 年に設立され、北米で最も古い伝統と教育レベルを誇る総合大学です。学生数は 4 万人を超え、また、世界各国からの留学生が在籍し、全体の 31%となっています。

プログラムについて

募集人数	約 20 名
実施時期	3 月の約 3 週間、気温は-5 度～5 度くらいです
費用	約 89 万円（以下内訳） 研修プログラム費用、ホームステイの宿泊費・食費（2 食付き）、海外渡航費（航空券、ビザ取得費用、海外渡航保険料） 現地での自己負担：現地交通費（ホームステイ先から大学までの通学費） 約 1 万円
単位認定	海外語学演習 2 単位（帰国後の成果報告書等により学習目標を達成したと評価された場合）

プログラムの特徴

英語学習授業　ホームステイ　病院見学　単位認定

オリジナル研修	聖路加国際大学とマギル大学が協働して開発した英語学習プログラムです。講義形式に加え、現地医療施設での見学実習を行い、看護・医学英語を実践的に学びます。 プログラム期間中は、現地の家庭にホームステイ。日常英会話の機会を得ながら、現地の人々の生活を体験することができます。
研修プロセス	コンテンツベースドラーニングの理念に基き、モジュールⅠ／モジュールⅡ／モジュールⅢの3つのプロセスで構成され、段階的に英語力を養います。

モジュールⅠ 医療英語クラス
医療・看護英語について、4つの看護領域毎に、実践的な医療英語を講義形式で学びます。

モジュールⅡ 看護関連トピックセミナー
現地の教授や医師を講師に迎え、セミナー形式で学びます。

モジュールⅢ 病院施設での見学実習
地域病院や、医療保健施設を訪問し、見学や実習を行います。

参加者の声

カナダの医療について学ぶ授業は Module1,2,3 という様に組まれており、まず基本的な医療英語を学んでから、看護師や講師による講義を受け、そこから実際に病院や施設に赴くという内容であった。いきなり訪問をするのではなく、少し知識を得てから施設へ訪問したので、より深い学びを得ることができたと考える。訪問先は、病院だけでなく公衆衛生について学べる施設に行ったり、自分の興味のある分野を選んで訪問したりと多岐にわたった。（中略）また、プログラムの中にマギル大学の学生と交流する時間が含まれており、新しい友達を作ることもできて良かったと思っている。ホームステイ先では、すべての会話を英語でしなければならないため、その難しさを痛感した。しかし、今の自分の英語力で、どのくらいの会話ができるのか認識することができた。暮らしや会話の中で、文化の違いを知ることもでき、もっと知りたいとも思った。そして、そのためには英語の勉強をさらにしなければならないと改めて思った。（2018 年度学部 3 年）

病院見学や実習、現場で働く看護師たちのレクチャーを受講することにより、現地の抱えている医療問題や医療者の取り組み、そして日本との比較をすることができた。特に実際に足を運び見学をすることやなぜそのようなアプローチがされているのかなど座学と現場を見るという双方を学ぶことにより、より理解が深まった。また、学生モニターから聴いた実際の学生たちの生活の話を聞くことにより、医療者側の提供と市民のニーズについて照らし合わせることができた。（2019 年度学部 4 年）

授業では、日本の医療制度や教育制度などについて、自分の意見を求められる機会が多く、英語で自分の意見を述べることの難しさと必要性を感じた。また、日本に対する知識があったとしても、共通認識が異なる人に対して、どのように説明するべきか考える機会となった。（2018 年度学部 3 年）

4 年生のプログラムの紹介です。

総合実習

1. フィリピン・国際看護学
2. アメリカ・イリノイ大学シカゴ校看護学部派遣研修

4 年生の前期には、総合実習という約 15 種類の内容から選択する授業があります。その中から 2 つの海外派遣プログラムを選ぶことができます。

1. フィリピンの国際看護学は、マニラのスラム街で看護活動をします。途上国での国際看護に携わる看護職にふさわしい態度やマナーを身につけ、役割を理解し、看護の専門性について考え、自らの看護観を深めるのを目標としています。この実習に参加するには、国際看護ゼミナールを履修することが前提条件となります。

2. イリノイ大学研修は、約 3 週間アメリカに滞在します。異国における実践の場の特徴を理解し、チームメンバーと協働しながら、対象の最適健康状態を生み出す個別性のある看護を考え、実践するのが目標です。イリノイ大学での講義や病院での実習があります。より大きな成果を上げることを目指して、参加希望者には英語スコア要件（CASEC 700、TOEFL iBT 80、TOEIC 725 以上のいずれか）が設けられており、また研修参加の審査には日本語・英語の面談もあります。

アメリカ・デューク大学看護学部グローバル＆コミュニティヘルス特別プログラム

デューク大学研修プログラムは、世界中のデューク大学協力校から学部学生が集まり、講義やグループワークを通して米国の看護及び公衆衛生に対する深い理解を養い、またお互いに交流を深めます。この研修も参加するには高い英語力が求められます（TOEFL iBT100、IELTS7.0）。このスコアに到達していなくても参加は可能です。デューク大学のプログラム担当者とウェブ上で英語の面談をし、合格することが参加条件となります。もちろん英語力だけでなく、研修参加には積極的に参加者同士でコミュニケーションを取ろうとする姿勢、またグループワークへ貢献しようとする姿勢が重要となります。

四年生向けのプログラムは、現地の方々や他国の留学生との日常的な交流、英語での高度な講義や実習など、ハイレベルな内容です。まずは海外に行って滞在すること、外国人との交流を持つこと、などを入学してからの生活や事前の短期海外留学などで経験して慣れておくことをお勧め致します。また英語力も必須となりますので、大学主催の語学講座や e-learning を利用して自己学習を進め、語学試験を受験するなどして準備を進めておきましょう。

総合実習 国際看護学

プログラムについて

募集人数	約 5 名
実施時期	8 月の約 1 週間、雨季で雨が多く蒸し暑い
費用	約 28 万円（以下内訳） 研修プログラム費用、ホテルでの宿泊費・食費（朝食のみ）、海外渡航費（航空券、海外渡航保険料）、現地交通費、予防接種料（約 5 万円） 現地での自己負担：昼食・夕食　約 2 万円
単位認定	総合実習（国際看護学マニラ）4 単位（帰国後の成果報告書等により学習目標を達成したと評価された場合）

プログラムの特徴

単位認定　病院見学　看護実習

国際看護の実践		国際看護の知識や理論をもとに、実際にマニラを訪れて、地域の健康問題をアセスメントし、看護活動を実践します。実習履修者は、看護ゼミナール（国際看護）をあわせて履修することが望ましいです。
事前学習	**1. 言語**	実習国言語の簡単な基礎会話・疾患名および問診の仕方を自己学習します。併せて実習国の文化や医療保健制度も理解します。
	2. 看護知識	①フィジカルアセスメント（問診と身体アセスメント技術） ②実習国で多い感染症：特に結核・HIV・小児感染症 ③妊婦健診技術（内診は除く）④実習国の保健活動　　等々
	3. 実習テーマ	各自が実習目標に即したテーマを設定し、自己学習を行います。自己学習内容は実習先に提出します。

参加者の声

実習は主にトンド地区にあるヘルスセンター（以降「カノッサ」とする）で行われ、教員や現地のシスター・ボランティアの方々から提案を受けながら、その時々でできることを実践しました。実習内容としては、結核の DOTS、外来（血圧測定）、妊婦検診（内診除く）、家庭訪問及び母乳寄付、幼児への歯磨き指導、無料の配食、カノッサ周辺での職業体験、Happy Land の地区踏査、カノッサでの就労支援（縫製）の見学が挙げられます。実習を経て、フィリピンの首都マニラで最も貧困の多いトンド地区は、経済面、衛生面等様々な面において大きな課題があることが分かりました。教育を受ける機会が少なく、親の収入も満足でない子ども達は成長してもまた定職につけず、同じことが繰り返され、貧困の連鎖に陥り、貧しい者はさらに貧しくなってしまいます。（2019 年度学部 4 年）

歯磨き指導（健康教育）では、実習前に日本でタガログ語の学習を行い、タガログ語を用いて行いました。発音が難しく、何度も練習を重ね、実習に挑みました。子どもたちにわかりやすいようにイラストを描いた模造紙を使用し、できるだけ簡単に理解することができるように工夫しました。その甲斐あってか、本番当日もシスターたちのサポートを得ながら、スムーズに進行することができました。正しい知識を伝えるだけではなく、どのように伝えたら継続して実践することができるようになるのか考えさせられました。（2019 年度学部 4 年）

今回の実習を通じて、将来国際看護の分野で活躍したいという気持ちが強くなったと同時に、自分に何ができるのか、どのようなことをしたいのか深く考えさせられました。まだ明確にはなっていませんが、地域に積極的に溶け込んでいくこと、自分の価値観で物事を考えないことが重要であると思います。まずは、その地域の人から好かれ、信頼を得ること、これが地域で国を越えて看護を行ううえで前提になると思います。（2019 年度学部 4 年）

総合実習　イリノイ大学シカゴ校看護学部研修

イリノイ大学について

米国のイリノイ州シカゴにある公立大学です。国内最大規模の医学部をはじめ 15 の学部があり、国内最大の医療センターを併設しています。
また、米国で看護学の研究費獲得が常に TOP10 に入るなど、非常に研究力が高い大学としても知られています。

プログラムについて

募集人数	約 3 名
実施時期	6 月～7 月の間約 3 週間、日本の夏とほぼ同じ気候です
費用	約 102 万円（以下内訳） 研修プログラム費用、ホステル宿泊費・食費（朝食と平日の昼食）、海外渡航費（航空券、海外渡航保険料、ビザ取得費用（各自手配））、現地交通費、予防接種料 現地での自己負担：平日の夕食、土日の昼夕食　約 5 万円
単位認定	総合実習（国際看護学イリノイ）4 単位　（帰国後の成果報告書等により学習目標を達成したと評価された場合）

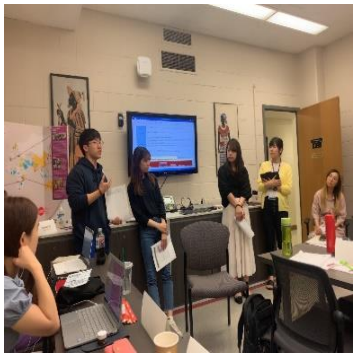
プログラムの特徴

単位認定　病院見学　看護実習

プログラムについて	附属病院での病棟見学実習・看護学部講義（グローバルヘルス）を行います。本プログラムには海外の他大学看護学部生も参加します。3 週間のプログラム参加を通じて、異文化・国際的視野に立った看護についての理解と発信力を深めていきます。

参加者の声

シカゴの病院を見学したり、講義で聴いたりしたことから、生活背景の違いから様々な疾患を患うリスクが高くなっているということを学びました。シカゴという街は様々な移民によって作られていて、言語や文化が異なる人がそれぞれグループを作って住んでいました。中でも、英語を苦手とする民族は言語が壁となり医療へのアクセスが悪かったり、貧困が問題になったりしているということがわかりました。貧困であると、医療保険を買うことができなかったり、十分な教育が受けられなかったり、バランスのよい食事をとることができなかったりし、子どもの発達に影響したり、肥満による心疾患、糖尿病などのリスクを高めるということがわかりました。また、アメリカでの生活状況や移住の理由などによっては精神疾患を患い、アルコールやたばこ、ドラッグの中毒になってしまう人も多くいるということも学びました。このように様々な健康問題があるにも関わらず、公的医療保険制度の適用が高齢者と低所得者に限られていて、大半の人は私的に医療保険を買わなくてはいけないことにも、公衆衛生の観点から考えると問題を感じました。（2019 年度学部 4 年）



申し送りを患者の前で行うシステムに関し、医療チームの中心は患者であり、患者自身もケアの計画や治療方針に参加できる環境であると感じた。患者の前で情報を開示することで、患者が実際に感じる苦痛や疑問、希望を申し送り時に投げかけることができ、またそのように自身の意思を伝える機会があることで患者にとって受動的なケアではなく、能動的な治療を行うことができるのではないかと考えた。廊下に歩行距離を記録するボードがあったり、疾病についてのカラフルなポスターが展示されていることも患者や家族の理解を深め、行動のきっかけを作っていると学んだ。さらに、アメリカの看護師の経歴は多種多様であり、臨床を経験してから博士取得、またはドクター取得に進む人もいれば、大学卒業後に PhD を選択する人もおり、自分の専門性を高めるだけでなく、その知識を生かす機会が多くあると感じた。周りに研究と臨床を繰り返すこと看護師が多くいることで、臨床から離れることを恐れずに研究に戻ったり、他の場所での看護提供を可能にしていると考え、またそれらのことは看護師の選択肢を広げ、結果的に患者、家族、コミュニティーの生活の質の向上につながると感じた。（2019 年度学部 4 年）

デューク大学看護学部
グローバル&コミュニティヘルス特別プログラム

デューク大学について

ノースカロライナ州ダーラムに本部を置く私立大学。U.S.NEWS 全米総合大学ランキングにおいて常にトップ 10 入り、どの様な世界大学ランキングでも常にトップ 30 入りする世界屈指の名門大学です。看護学部の夏期特別プログラムに本学代表として参加します。

プログラムについて

病院見学　文化交流アクティビティ　単位認定

募集人数	約 4 名
実施時期	8 月初旬の 3 週間、最高気温は 30 度ほど
費用	約 93 万円（以下内訳） 研修プログラム費用、ホテルでの宿泊費・食費、海外渡航費（航空券、海外渡航保険料、ビザ取得費用（2 千円程度、各自手配））、現地交通費 現地での自己負担：平日の夕食、土日の朝昼夕食　約 4 万円
単位認定	国際交流演習 1 単位（帰国後の成果報告書等により学習目標を達成したと評価された場合）

参加者の声

講義では、毎日様々な分野の教授の講義を聞いた。講義はテーマについての解説や実際の研究概要を含み、各国の学生は教授の話の途中でも質問を多くしたり、教授から“How about Japan?”などと意見を求められたりする場面が多く、参加型の授業であった。印象的であるのは、ほとんどのテーマの講義の中で“stigma”について触れられていたことだった。コミュニティに根付く価値観は大きく医療問題に関わっていること、そして自分自身も物事に対して多かれ少なかれ捉え方の偏りがあることを再認識した。また、各疾患の概要や治療法について医療知識として知ってはいたが、それがどう人々の環境に関わり影響を与えているかについて深く考えることが重要だと学んだ。

コミュニティアセスメントではダーラムの街をバスで巡り、地域の人々の暮らしを見て、地域の人々の健康決定要因が生活環境の中にあることを直接学んだ。様々な人種の人が共存するコミュニティを実際に見学して解説を聞くことで、環境の中に現れるアメリカの社会を実感した。例えば、低所得者が暮らす公共住宅と超高級住宅地の周辺環境には大きな差があったり、車がなければ病院にもスーパーにもアクセスしにくい住宅地があったりと、同じ町の中での地域差を知った。このコミュニティの環境が健康にどう影響するのか、病院で働く医療者として知ることが必要だと学んだ。もちろん、これは日本の病院で働くこととなっても同じことであると思う。病院に来る人がどのような生活を送っているのか、暮らしがどう対象者の生活に関わっているのかアセスメントし、コミュニティ全体を把握することが重要であると気が付くことができた。Duke University Hospital の見学では Neurological ICU での看護実践を見せてもらった。印象的であったのは、回診の際に医師、フェロー、レジデント、看護師、薬剤師などが多職種で患者のベッドサイドでカンファレンスを行っていたことであった。その時に、看護師のアセスメントが医療チームに共有され、クリニカルデシジョンがなされていた。看護師が担う役割は患者の身の回りの世話にとどまらず、治療的な側面で大きな責任があるのだと感じ日本との違いを学んだ。このように医療現場を見学し、医療チームの看護師の立ち位置や担う責任の重さが異なること、看護師自身が EBP を基礎として実践を求められることを知った。また、全病室にはリフトが設置されており体位変換や移乗など、看護師や医療職の負担が少なくなるよう設計されていた。薬剤や物品は専用のボックスで管理され、カルテと連携したタッチパネルで操作し取り出す仕組みとなっていて合理的であった。働きやすさという観点で、病院のあり方を考えることができた。

また、私には英語でのコミュニケーションに課題があった。しかし、どの学生も教授も私のつたない話を一生懸命聞いて意見を尊重してくれた。講義の内容は専門的な話になると理解が難しいこともあったが、授業後、聖路加生に解説してもらったり自身で復習したりすることで努力できた。一人では乗り越えられなかったが、コースの最後には Dr. Rolf から終了証を手渡され、「あなたはただのナースではない。大学院レベルのコースを修了できたこと、この終了証と成績相が証明している。努力を続けて。おめでとう。」と言葉をいただいた。本当に嬉しかったし、これまでの努力が実ったと感じた瞬間だった。1 年生の頃から選択英語や TOEIC/IELTS などの課外講座に参加して準備してきた成果であると感じているし、諦めなければ絶対できると学ぶことができた研修でもあった。自分の中の問いであった「医療の水準」の全体像はまだはっきりとはつかめてはいない。しかし、それを知るために EBP を使い自分で考え続けるスキルを今回の研修で身に付けることができたと思う。今回の研修をゴールにするのではなく、実践者として働く中で考え続けるナースになるためのステップとしたい。（2022 年度学部 4 年）

夏期／春期海外留学助成

夏期／春期休暇期間を利用して本学主催プログラム以外の海外研修・ボランティア活動に参加する学部生の皆さんを経済的に支援することを目的とした奨学金制度です。参加プログラムの内容を審査し、支援対象となると判断された場合に奨学金が授与されます。

支援名	内容	金額	人数（予定）
海外研修・ボランティア活動支援	海外研修プログラム（語学・文化等）、海外ボランティア活動の参加経費の一部を補助します プログラム内容がわかる資料を提出いただき、補助対象となるか審査します	10 万円を上限とし、申請書類を審査の上、奨学金額を決定します	10 名

支援実績：
看護学生向け海外研修（アメリカ）、外国語研修（米国、アイルランド、フィリピン、中国）、保健医療研修（ネパール、ケニヤ）、国際保健医療協力研修（ベトナム）、児童対象ボランティア（ベトナム）、医療ボランティア（カンボジア、ミャンマー、インド、ベトナム、スリランカ）、環境保護ボランティア（オーストラリア）

参加者の声

ネパールのチョウジャリ病院では、入院理由の多くは木から落ちたことによる骨折、栄養不足により進行した骨髄炎、肺炎や COPD であった。これらは、発展途上国特有の、ライフラインなどが十分整備されていないことによって引き起こされる健康問題である。実際に現地へ行ってみて、やはりいくら病院で治療しても、環境が変わらなければ、栄養不良や大気汚染によって引き起こされる病気が繰り返されてしまう悪循環に悲しみを覚えた。しかし、その中でも、今は数年前にはなかったという道や橋ができていたり、停電が激減したりと確実に街が発展しているのだと感じたことで、看護職としてやるべきことはこの地域の発展に寄り添った活動をしていくことだと気づくことができた。また、発展途上国の田舎の医療というと、医療スタッフや物資が足りないイメージを持っていたが、チョウジャリ病院では限られた人材、物資のなかでもうまく機能している様子だった。このような病院の場合、日本からできる支援とは、病院で働く医療スタッフ派遣というよりは経済的理由で病院受診できない患者を支援する仕組みを作ったり、現地でも活用できるような保険制度の提案をしたりすることなのかもしれないと思った。また公衆衛生活動としての、学校保健の充実や歯科受診の促進は病院では手の回らない部分であるため、ボランティア介入が生きる場であると感じた。（2018 年度　学部 2 年）

ミャンマーの病院では日本人の医者は常駐していないため、看護師が抜糸をしたり、退院の判断をしたりと日本以上に看護師が考えて判断をする場面が多かった。看護師一人の能力が日本以上に求められていると感じました。しかしミャンマーでは看護師はたったの 3 ヶ月学校に通っただけでなることができ、あとは実践で経験を積んでいくことになる。そのため、エビデンスに基づいた知識や技術はあまり備わっていないのではないかと感じました。ミャンマー人にはミャンマー人の良さがあり、日本人には日本人の良さがあるためお互いの良さを引き出し合いながら医療を提供できることが理想だと感じました。（2018 年度　学部 2 年）

学内における国際交流

協定校からの短期留学生の受入、海外医療機関からのゲストの受入等を通し、学内においても語学力の向上や異文化理解の力を育めるよう、ご活用頂ける様々な機会を提供しております。

＊ホストファミリーとして留学生を迎える（随時募集）

＊留学生・ゲストとの授業や交流会に参加する　等

授業（日本の文化紹介）

学生委員会（留学生歓迎会）

留学生のホストファミリー

部活動（WHA：留学生との医療保健トピックに関する意見交換）

海外の看護師との交流会（写真は米国ミネソタ州メイヨークリニックナース）

《発行元》
聖路加国際大学　看護学部
国際連携推進委員会分科会